

伊勢・三河湾貧酸素情報 (H27-1号)

平成27年6月5日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

はじめに

今年度も6月から10月まで、伊勢・三河湾の貧酸素水塊の発達状況について、現況と予測の情報を提供します。

データは、三重県水産研究所が「あさま」で実施する浅海定線調査、愛知県水産試験場が「海幸丸」、「へいわ」で実施する環境調査等の結果を利用し、月2、3回程度情報提供する予定です。

情報は、迅速性が求められるため、調査後速やかに提供することとしております。このため、データは速報値であり、後日、補正等で修正される場合もありますので、ご承知おきください。

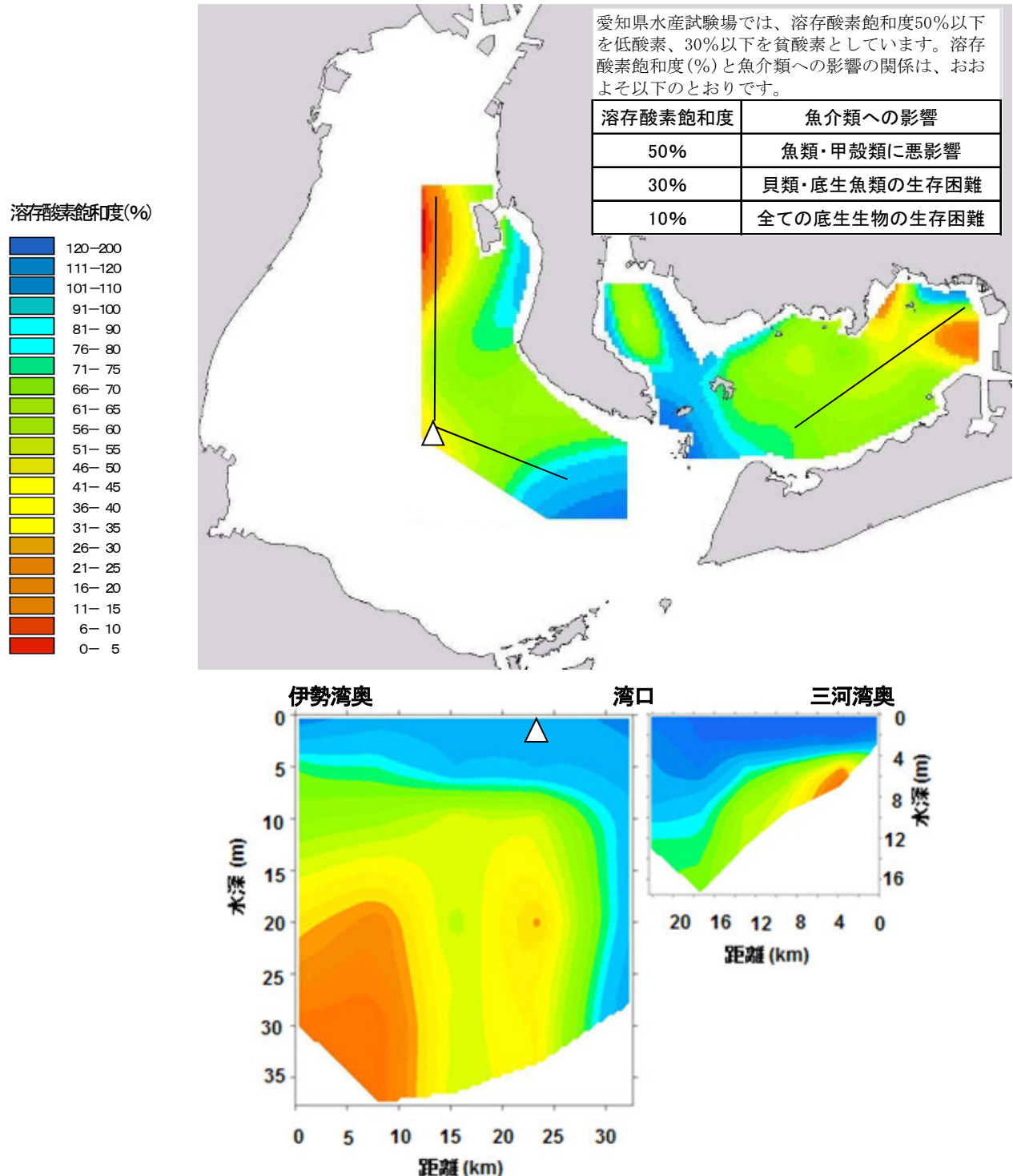


図1 伊勢湾 (6月1日)・三河湾 (6月2,3日) 底層の溶存酸素飽和度の分布 (上図) 及び上図直線部分の鉛直分布 (下図) (愛知県「へいわ」調査)

伊勢湾

6月1日の調査結果を図1に示しました。伊勢湾では湾中央部で溶存酸素飽和度30%以下の貧酸素水塊が確認されました。

今後は、表層の水温上昇と低塩分化により成層化が進み、徐々に貧酸素化が進行すると思われます。

	水温(°C)			塩分		
表層	20.5	～	22.1	27.8	～	31.6
底層	14.0	～	18.5	31.2	～	33.9

三河湾

6月2,3日の「へいわ」の調査結果を図1に示しました。三河湾では湾奥部で貧酸素水塊が確認され、昨年同期に比べて貧酸素化が進んでいました。

しかし、自動観測ブイ(1号)のデータを見ると、調査後の6月4日には強風による海水の上下混合で底層の溶存酸素飽和度が上昇していることが観測されています(図2 緑線:表層 青線:底層)。

今後は、底層の溶存酸素飽和度は一時的に回復するものの、その後は湾奥部を中心に再度、低下していくと思われます。

	水温(°C)			塩分		
表層	21.0	～	25.0	26.6	～	31.5
底層	17.0	～	22.8	30.3	～	33.4

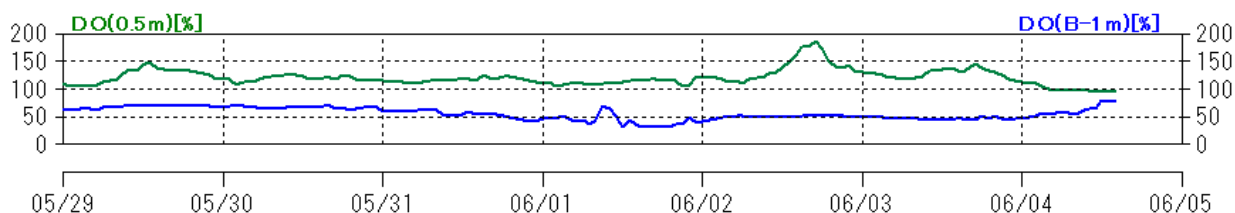


図2 溶存酸素飽和度の経時変化(自動観測ブイ1号)

参考

前年同期の両湾底層の溶存酸素状況

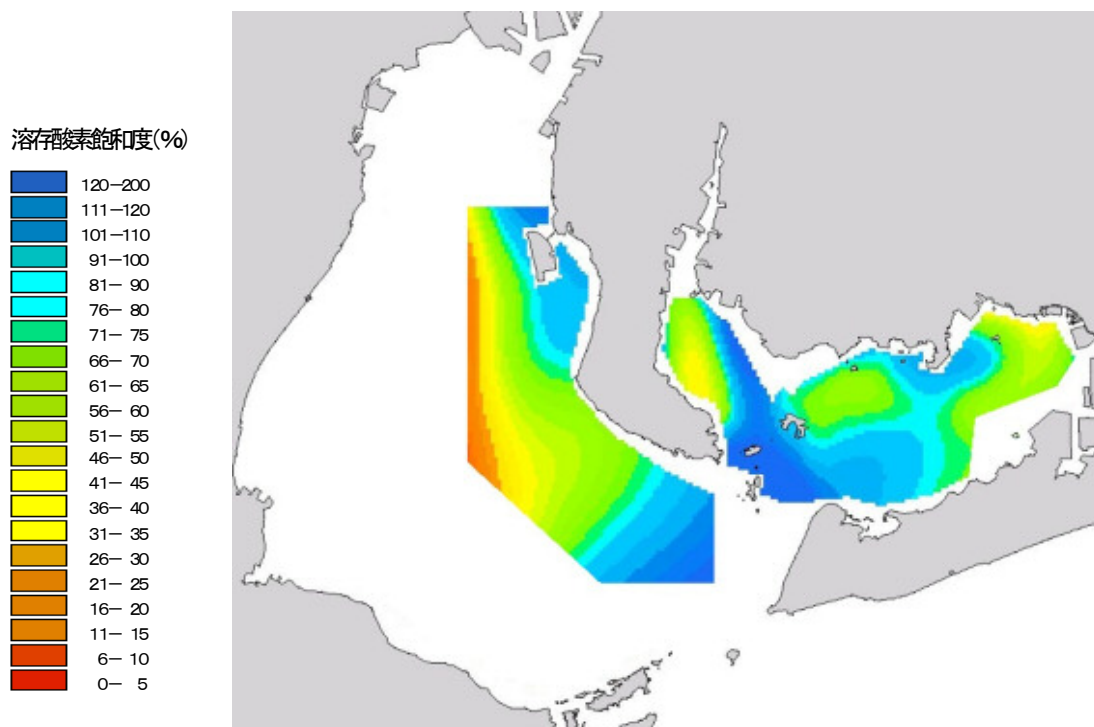


図3 平成26年6月2日(伊勢湾)、6月3,4日(三河湾)